

展示更新によって誕生した「みらいーらルーム」

事業企画グループ チーフエディケーター 上野 元嗣

概要

浜松科学館は、2019年度に全面リニューアルを行い、その5年後となる2024年度と7年後となる2026年度に、展示の一部をリニューアルすることが計画されている。今回は2024年度の展示リニューアルによって誕生した「みらいーらルーム」について紹介する。

1. 背景

浜松科学館では、2019年の全面リニューアルから5年目にあたる2024年度と、7年目にあたる2026年度に常設展示の一部を更新することが計画されている。最新の科学的知見や科学技術の新たな動向を取り入れることを目的に、常設展示の約1割を目安に更新する予定としている。本事業は指定管理業務として行われる。他、詳細については前年度浜松科学館紀要「職員主体で行う展示リニューアル～浜松科学館 展示リニューアル 2024/2026 基本計画策定」をご覧ください。

今回は、2024年度リニューアルのメインの1つであるみらいーらルームについて、紹介したい。

2. みらいーらルームのコンセプト

ルームは、変化に富み、創作と実験を繰り返しながら探究を深めていく展示空間として構想した。常設展示室2階に設ける創作スペースで、自由な発想で創作できる機能をもたせる。現行の常設プログラム「ワークショップ」の会場としても利用することを計画した。浜松市は繊維、自動車、バイク、楽器、光産業などの産業において世界的に有名な企業が数多く所在することから「ものづくりのまち」と呼ばれている。合わせて、技術者・創作者を支援する取り組みも行政を中心に活発に行われている。浜松科学館も「ここに行けば何か作ることができる」と思われる施設の一つとなることで、ものづくりへの関心を引き出し、活動の支援ができればと思う。また、この場所で分野としての科学におさまらない多様な交流や、創発・共創が生まれることを期待している。

(前年度紀要より抜粋)

3. みらいーらルームの仕様

完成したみらいーらルームについて、その特徴を紹介する。

全体像



図1：みらいーらルーム

新設された水道設備、バックヤード

事業参加者が利用できるよう、オープンスペースに水道設備を設置。バックヤードはワークショップの材料を収納することを想定しているため、大容量に大きく面積をとることとした。前面は棚を設置、こちらには「ちょこっと体験」の材料を収納している。上段は安全上、コンテナボックスを置かず、過去のワークショップのメニューを展示する。



図2：水道設備



図3：バックヤード

ライティングレール

ライティングレールは2800mmの高さに設置した。科学館の天井として考えるとやや低い場所であるが、自由に移動できる、シーンに合わせてライティングできるという利便性を考えてこの高さに設定した。



図4：ライティングレール

床デザイン

元々の床デザイン（六角形）を活かし、シンプルにラインテープのみでデザインした。このラインに合わせて、机を配置すると様々なパターンが得られるうえ、整列して並べることができる。



図5：床のデザイン

看板、サイン

今回は展示室のほぼ中央にルームを新設した。館内のどこからでも見えるよう、既存の柱にサインを設置した。デザインは視覚に障害のある方にもわかりやすく、床と柱の区分けをはっきりとさせた。看板も立体的で、大きなものを設置し、ここが特別なスペースであることを強調している。



図6：展示室の中央看板



図7：柱のサイン

空きスペース、テーブルの有効活用

以前、M2Fで使用していたテーブルを再利用し、実験スペース、作業カウンターとして利用している。実験スペースには「ダビンチの橋」「東大脳 ブロック10(タカラトミー)」などの手作りコンテンツや市販品などを織り交ぜ、家族や友達同士で気軽に体験できるスペースとしている。作業スペースでは、次回のワークショップの材料加工などを行っている。こちらもオープンにすることで、来館者と職員のコミュニケーションを促し、次回への期待感を高めている。



図 8：再利用のテーブル



図 11：ワークショップ「葉脈標本のしおりをつくろう」

4. 運用実績

3月のリニューアルに先行して、みらいーらルームの運用を開始した。実際に使用しての所見を述べる。

4-1. ワークショップの場としての活用

リニューアル前は出口ゲート付近で実施していたワークショップを、ルームに移設した。ワークショップ内容は大きくかわっていないものの、新設した水道設備、バックヤードによって、作業効率が格段に向上した。さらに、水を使った実験（墨流しやスライムなど）がよりやりやすく、また、安全面（すぐに手を洗うことができるなど）においても、メリットが多い。（元々なかったことが問題ではあるが）。ワークショップの内容を検討する段階でも幅が広がったのは間違いない。



図 9：ワークショップ「墨流しコースター」



図 10：ワークショップ「光が大好き！蓄光スライム」



図 12：ワークショップの様子

4-2. ちょこっと体験

今回のリニューアルで生まれた新しい体験の場、機会である。「開館日の午前中、予約不要、どなたでも自由に気軽に体験できる」そんな思いから「ちょこっと体験」と名付けた。リニューアル構想に掲げていた「変化に富み、創作と実験を繰り返しながら探究を深めていく展示空間」を体現したものとなっている。

初期は以下のような企画から実施した。

ネタ	内容
食塩水で虹を作ろう	比重の違う食塩水を重ねていく。ビーカーや試験管、スポイトなど本格的な実験機器を使い、小さな子どもたちも実験にふれることができる
皿回しに挑戦	紙皿、紙コップで作った道具で皿回しに挑戦する。他ではなかなか触れることが出来ない体験を提供する
グラスハーブ	水を入れたグラスの縁をこすって音を出す。音ゾーンとのつながりも合わせて提供する

ペットボトル フリップ	無人でも運用できるコンテンツとして考案。気軽に取り組めるものであるが、物理を学ぶことができる
尿素で ヒエヒエ	尿素に水を加えて時に起こる吸熱反応を体験する。初歩の化学現象として小さな子も楽しめる
ちょこっと プラネ	詳細は別記

執筆時（2025年11月）には、25種類程度までコンテンツが増えている。柔軟な発想でさらに数を増やしていく予定である。



図 13：ちょこっと体験「皿回しに挑戦」



図 14：ちょこっと体験「食塩水で虹を作ろう」

4.3. ボランティアとの協働

「ちょこっとプラネタリウム体験」というコンテンツが誕生した。部屋の棚にスクリーン（布製）を垂らし、プロジェクターでステラナビゲーター（AstroArts）を投映するというもの。小さな子から大人まで、気軽にプラネタリウムを体験できる。投映者がその日の星空などを5～10分程度、解説する。これは、当館のボランティアメンバーから生まれ、解説もボランティアメンバーが行っている。以前より、天文（プラネタリ

ウム）に関するボランティア活動が欲しいと要望を受けており、部屋の誕生とともに実現し、ボランティアの活動の場としても広がりを見せることができた。



図 15：ちょこっと体験「ちょこっとプラネ」

展示更新の計画の時点から「手軽にプラネを楽しめるようにしたい」という案があり、当初は、宇宙ゾーンに展示を新設、もしくは改造してはどうかという意見もあったが、予算や運用面から採用とはならなかった。今回のルームの新設で、叶ったみらいーらルームの理想の活用方法の1つである。

5. 総括

今回のリニューアルの目玉の1つとして掲げた「みらいーらルーム」だが、順調なスタートが切れたのではないかと感じている。新規展示物制作は、最初は良いが変化がなく、2、3度体験すると飽きられてしまうこともあるが、ここでは空間を創り、体験価値を提供することができている。アンケート調査をしたわけではないが、来館者から「楽しくなった」「いろいろなことができるのが良い」との声もいただくことができた。

リニューアル計画に掲げた展示物との連携も実施済み(2025年5月、風のテーブルでふわふわパラシュート)である。ルームで作ったものを展示室に持ち込み、自分で実験。さらにルームに戻って改良、実験……。この流れもスタートしている。

執筆時(2025年11月)には、ルームを使った企業との連携事業、大学との連携、ボランティアによる活用などもすでに実施されており、当館の1つの事業の柱になりつつある。また、部署にもこだわらない(例:アテンダントチームによる昆虫食の試食会)活用の事例も始まっている。

一方で、目標の1つである来館者同士のコミュニケーションの場となるような仕掛けについてはまだまだ検討や工夫を重ねる必要があり、職員の業務負担、運用のルールなども考慮していかなければならない。

今回の展示更新はゴールではなく、スタートであり、今後、みらいーらルームがどれだけ成熟していくか是非、ご期待いただきたい。

